

2020年3月14日

社会福祉法人あおば福祉会
おひさま岡町保育園
2020年度（第20年度）事業計画

はじめに

2001年に30人定員の乳児の園として開園してから本年度で20年を迎えます。おひさま岡町保育園は開園した当初より定員を増やし、幼児保育を開始、その後、分園をつくって乳児と幼児が分かれて保育を行うことが特徴です。就学前まで保育園に通うことが可能になったことで、卒園児が6年生卒業を機に行う同窓会で成長した姿を見せに来るようになったことも喜ばしいことです。みんなで歩んできた20年なので、12月20日にこどもたち、保護者、職員と一緒に、祝う会を行う予定にしています。乳児園である本園と幼児園の分園で2ヵ所保育を行うようになり7年目を迎えます。中堅保育者がリーダーとなり力を発揮すること、若手職員も保育力量を高めていくなど、職員育成にも力を入れる1年にと考えています。

1 こどもの入園予定

おひさま岡町保育園

定員：90名

クラス(対数)	定員	受入児童数	内支援児	4月予定児童数	継続児童数
0歳児(3:1)	15	12	0	12	0
1歳児(5:1)	15	15	0	7	8
2歳児(6:1)	15	15	0	4	11
3歳児(15:1)	15	16	0	3	13
4歳児(30:1)	15	16	0	1	15
5歳児(30:1)	15	15	0	0	15
合計	90名	89	0	27	62

※一時保育事業実施

2 職員体制と職員の状況（新規採用・異動）

新規採用者 保育士 2名 2020年4月1日付（経験者）

異動者 保育士 1名（瀬川保育園より異動）

正規職員・・・ 16名 園長1 総主任（副園長）1 副主任（主任）1 保育士11 栄養士2

パート職員・・・ 20名

常勤パート職員・・・ 6名 保育士3 看護師2 栄養士1

短時間パート職員・・・ 14名 保育士6 看護師1 調理員2

事務 1 保育補助 4

派遣職員・・・ 1名 保育士1

嘱託医・・・ 4名 内科 なんばこどもクリニック

歯科 カワムラ歯科診療所

眼科 谷口眼科

耳鼻科 かない耳鼻咽喉科

3 こどもの安全と健康・危機管理

こどもたちや保護者にとって、安全であり安心できる保育環境にむけて取り組む。

園内の事故防止に努め、こどもたちの健康な身体づくりについて家庭と連携しながらすすめる。

◆こどもたちの命を守ることを最優先とする。

- ・災害（火災・地震・台風・不審者・停電等）を想定し、毎月1回の避難訓練を実施する。
- ・SIDSは乳児にかかわる職員を中心に、またAED講習会を全職員対象に行い学習を積み重ねる。
- ・管理者、衛生推進者や看護師とともに命を守る保育を確認し合い、意識を高める。

（衛生推進者を各園に置く。看護師がその役割を果たす）

- ・災害対策委員（園長・総主任・副主任・専門リーダー）を中心に災害対策を確認、職員に周知する。

◆こどもの安全を優先した保育が組織的に行えるようにする。

- ・睡眠チェック（5分毎）・アレルギー対応（卵・乳・大豆・小麦）を実施する。
- ・アクシデント報告（SHELL）に基づいて分析し、リスクマネジメントの観点から危険予測できるようにする。
- ・ヒヤリハットによる再発防止を徹底する。（全職員に周知）

◆こどもたちの権利や児童虐待防止に関する学習を行う。

- ・幼保小連絡会や地域福祉会、民生委員との連携を行う。

4 保護者の願いに応え、こどもと共に育ちあう関係を大切に！

- ・職員は理念や基本方針をしっかりと身につけ、保護者とのコミュニケーションを図る。
- ・保育者は保育を自分の言葉で語り、日常的に保護者との信頼関係を深めるようにする。
- ・保育参観、保育参加、懇談会、個別面談を実施し、こどもたちの成長の共通理解を行う。
- ・保護者会との共同の会議（四者協議会）や各種実行委員会などを通し、年齢の枠を超えた保護者同士のつながりを持てるようにする。

◆12月20日（日）に20周年記念事業を行う。こども・保護者・保育者が喜び合い、交流できる機会とする。

〈記念事業〉

*講師依頼の実施*記念誌の発行

5 地域に根ざし地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

- ・一時保育を行う（1日5名）
- ・近隣の高齢者を招いてお食事会を年2回行う。（5月と12月）
- ・地域の「ひと・まち・であい夏祭り」に参加する中で、地域の方と交流する。（7月）
- ・地域貢献活動推進社会福祉法人登録制度に登録をする。（豊中市）
- ・幼保小連絡協議会を中心に施設交流や関連機関との連携を図る。
- ・地域の育児サークル「さくらんぼ」の支援を行っていく。

6 職員の資質向上をめざして

- ・実践と振り返りからの学びを持つ。各4～5回

*発達研修

*身ぶり研修

- ・それぞれの専門性を高めていく（キャリアアップ研修）3名
- ・各年齢の発達を理解した保育が行えるようにする。（保育学校・交換研修など）
- ・若手職員(1～3年目の職員)の学びの場を増やす。（研修・保育相談会・主任と保育をするなど）
- ・次世代を担う職員の交換研修をする。
- ・場面検討、他園実習などから学び、気づきを増やせる保育を目指す。（実践検討）
- ・全国の保育を知る中で自分たちの実践に活かし、保育の確信を強める。
（全国合研・全国保間研・給食セミナーなど）
- ・提案を積極的に行う。

*第59回 全国保育問題研究会・京都（2名）

*第35回 全国保育所給食セミナー

- ・こどもの権利を守る学びができるようにする。（虐待研修・人権研修は必ず参加する）

7 中長期計画に関して

【保育の力量を高めていく】

- ・学習の場を増やす（学びをもとに、保育の中のやってみたいという思いを引き出す）
- ・保育を語る機会を増やす（会議にとどまらず、世代間別など悩みも交流できる場づくり）

【中堅保育者の充実を目指して】

- ・中堅保育者の学びの場（中堅層の多い園へ実習に行くなど）人材育成を構築する。
- ・専門リーダーの役割を明確に、職員集団の中心として保育を担う。
（次世代リーダーを意識して若い保育者と交流するなど、保育の継承。）

【保育の運営を安定させる】

- ・定員が確保でき、安定した運営が行えるよう、地域のニーズや動向を調査・分析する。
- ・条件整備を考える。（市と相談していく）